

# 経済・金融フラッシュ

No.07-028 2007/06/08

## 5月マネー関連～貸出鈍化が継続

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

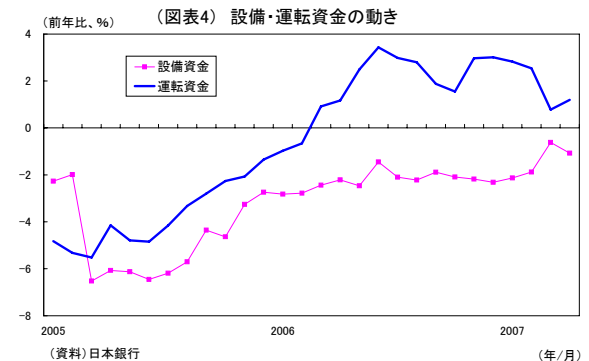
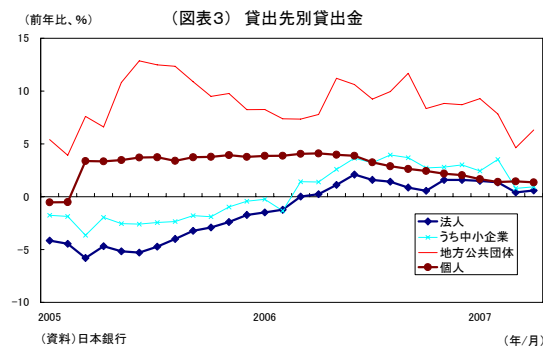
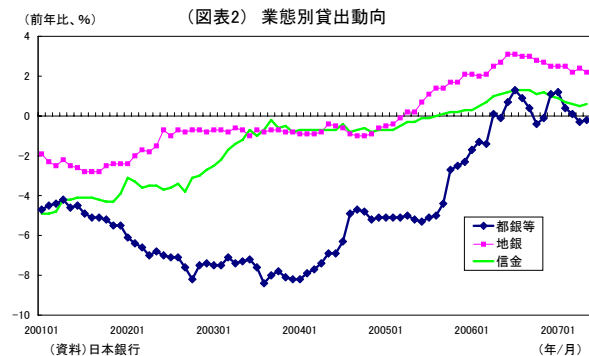
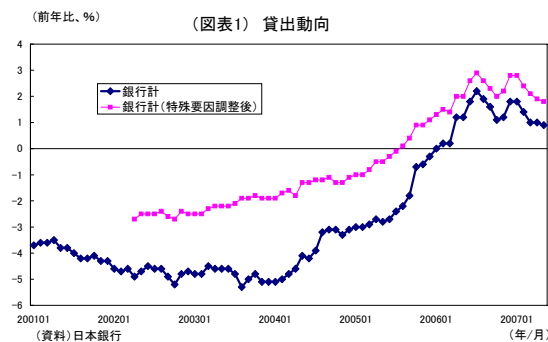
TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

### 1. 貸出動向：1月以降、前年比伸び率は低迷

日本銀行が6月8日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、5月の総貸出（平残、銀行・信金計）は前年比0.9%と17カ月連続のプラスとなった。ただし、伸び率は1月以降一服という状況が続いている（図表1）。

業態別には、全業態で伸び悩んでいるものの、地銀（同2.2%）が比較的堅調を維持しているが、都市銀行等は2カ月連続で前年比マイナスとなった（図表2）。

貸出先別貸出金（6/1日公表、4月分）を見ると、法人は年明け以降伸び率鈍化の動きとなっている（図表3）。景況感改善が足踏みする中で、原材料高騰が一服し、運転資金需要が鈍化しているようだ（図表4）。

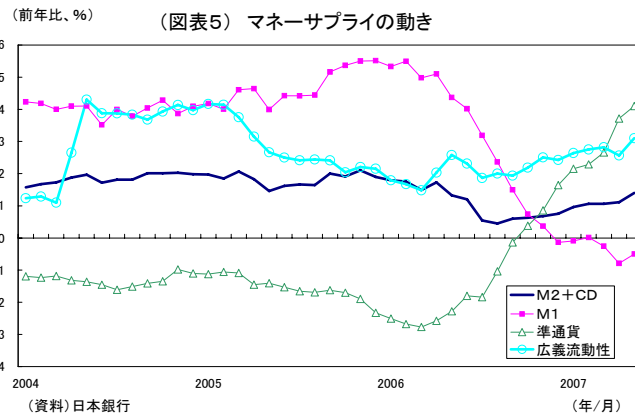


## 2. マネーサプライ、マネタリーベース

また同日、日本銀行が公表したマネーサプライ統計によると、5月のM2+CDは前年比1.4%と4月1.1%から若干伸び率が高まった(図表5)。

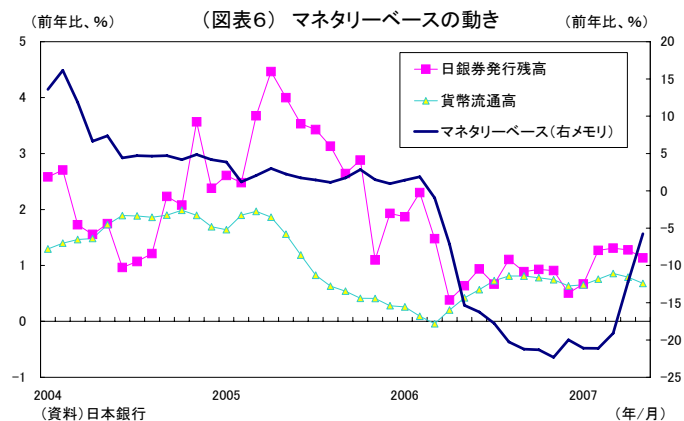
短期金利上昇に伴い法人を中心に普通預金から定期預金へのシフトが確認できる。M1が伸び悩む(同▲0.5%)一方で、定期預金を含む準通貨は同4.1%と高い伸びとなった。

また広義流動性は、投資信託などの高い伸びから、M2+CDよりも高い前年比3.1%となっている。



4日に公表された5月分マネタリーベースは、日銀当座預金残高の減少の影響が低減してきてはいるが、前年比▲5.7%とマイナスが継続している(図表6)。

ただし、日銀券発行残高は1.1%、貨幣流通高は0.7%と当座預金残高以外の要因は比較的安定した動きとなっている。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)